



糖尿病友の会 「三ツ矢会」新聞

マツダ(株)マツダ病院内
三ツ矢会事務局

第28号
発行日:令和5年12月13日

新しい糖尿病関連治療薬の話

1. GLP-1/GIP 受容体作動薬

2010年に「ビクトーザ」という1日1回注射のGLP-1受容体作動薬が発売されました。



これはインスリンと同じように皮下注射を要しますが食欲抑制効果を持つため体重減少が期待できる初めての糖尿病薬でした。今ではこのGLP-1受容体作動薬は週1回注射の「オゼンピック」や「トルリシティ」のようなお薬が主流になり、肥満合併糖尿病患者さんに良い適応がありますが、2023年春に「マンジャロ」という名前のGLP-1/GIP受容体作動薬が発売されました。まだ、長期投与が解禁されていないため、当院でもそれほど多く使用されていませんが、これまでのGLP-1受容体作動薬に比べてHbA1c改善効果、体重減少効果も優れており、また、注射器も1回使い捨てのオートインジェクター方式であるため簡便で、来春から多くの患者さんが用いるものと考えられています。

2. 週1回投与持効型インスリン (インスリンイコデク(アイコデック))



今年の8月には我が国においてインスリンイコデクの承認申請が行われたと発表されました。

このインスリンは世界初の週1回投与を可能とした超持効型インスリンといえる薬剤です。皮下注射後アルブミンに強力に結合し、その後緩やかに解離していくため1週間という長い効果を発揮します。既存の持効型インスリンであるインスリングルルギン(「ランタス」)やインスリンデグルデク(「トレスリーバ」)と比べ6-12週後のHbA1c低下作用に差がなく、また、低血糖の増加もみなかったという治験結果をうけての承認申請です。

インスリン4回法を行っている1型糖尿病の患者さんにおいては、これに変更することで基礎分泌のインスリンを1回でまとめて行えるということになりますが、超速効型インスリンはこれまで通り毎食直前に打つ必要があるので大きく変わりがないかもしれません。大きく変化するのはこれまでのインスリン1回法の患者さんです。インスリン投与が週1回ですむのですごく便利になるという点です。

特に認知障害などがあるためインスリンを一人で打てないが、内服での治療ではコントロールがつかない患者さんでは、これまでの独居や高齢2人暮らしを諦め、子供さんのもとに引き取ってもらったり、施設に入所してもらったりしなければならなかったりしました。

けれど、このインスリンが手に入れば、週1回、クリニックで注射してもらったり、訪問看護師に打ってもらえばすむということとなりますので、もう少しは現在の生活を続けてもらうことが出来るようになります。

3. アライ (オルリスタット)

どこかのカントクさんのような名前ですが、アクセントは最初の「ア」にあります。アメリカを初めずいぶん前から諸外国で

OTC (医師の処方がいらずに薬局で買える医薬品)

として売られていましたが、2024年春より大正製薬から日本でもOTCとして売られることとなりました。リパーゼブロッカーという種類の薬で、食べた脂肪の1/4が消化されずそのまま便に出るといった作用を持ちますので、年数kgの体重減が期待

できる抗肥満薬、あるいは糖尿病治療にも効果がありますが、今回は腹囲が男性で85cm以上、女性で90cm以上の内臓脂肪肥満の患者さんが、薬局薬剤師の指導のもとに

(きちんとダイエットを頑張っているかを繰り返し確認されるようです) 購入できる薬となります。大きな副作用がないためにOTCとして販売されることになりましたが、今から、ダイエットブームにのって、適応外使用をする人たちが大量に出はしないかと厚労省は危惧しています。当院でも同効のお薬の治験をやったことがあります。焼き肉を食べてこの薬を飲んだら、尾籠(びろう)な話ですが便失禁したとか、おならをしたら油が出てきた、と言った体験を話してくれた患者さんがいました。食べた油がそのまま出るので血糖管理にも好影響はありますが、使用する際には主治医に一報下さい。



(糖尿病内科医師 辻 英之)



スタッフ紹介

私は現在内科外来に所属しています。

2022年に広島県糖尿病療養指導士の資格を取得し、三ツ矢会に入会しました。

内科外来で勤務している中で、先生方や先輩看護師にご指導いただきながら、患者さんと直接お話する機会が増えていきました。その中で、患者さんの病状を理解し、また気持ちに寄り添った看護を行うためには、私自身が自分の知識を向上させる必要があると思い、資格取得に至りました。

患者さんが安心して治療を受けられるように、少しでもお役に立てればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

(内科外来 看護師 松岡 恵)

糖尿病ウォークラリー

10月15日(日)

「第21回歩いて学ぶひろしま糖尿病ウォークラリー」が千田公園で開催されました。コロナの影響によりこの度4年ぶりに開催され、マツダ病院からは三ツ矢会の患者さん、ご家族6名、スタッフ13名が参加しました。私も臨床研修で糖尿病内科にお世話になっていたこともあり初めて参加しました。

当日は天候にも恵まれ、

ウォークラリー日和の一日でした。

ウォークラリーでは千田公園の全長3kmのコースをクイズやゲームのチェックポイントを回り、クイズの正解数、ゲームの得点で競います。チェックポイントでは糖尿病に関する食事や薬のクイズから、広島らしくカープに関するクイズがあり、参加者同士で話しながら終始和やかな雰囲気で行進していききました。



金木犀の香りや転がったどんぐりなど秋の訪れを感じることができ、充実した時間を過ごすことができました。ウォークラリーの結果ですが、見事マツダ病院のチームが第一位となることができました。また、三ツ矢会より最高齢完歩賞受賞者が出たこともあり、非常に盛り上がりウォークラリーは終了しました。

今回ウォークラリーに参加したことで、患者さん同士が交流しているのを見て、お互いの糖尿病への意識や治療に対する意欲を高め合うことができるいい機会であると実感することができました。また今回のウォークラリーのような外来や入院以外の場面で、患者さんとコミュニケーションをとることで、良好な関係性を築いていくことができるなと感じました。最後になりましたが、ウォークラリー参加者の方々みなさんに心から感謝申し上げます。

(研修医 安達 和哉)

今から出発！頑張るぞ〜♪



澄んだ空気で、清々しい朝でした☆

クイズは難問！
チームワークを発揮！！

お見事！！



全員が無事にゴ〜ル♪

